



東京都 個人タクシー 協同組合様

「でんでん虫」でおなじみの東京都個人タクシー協同組合様。組合を挙げて、加入事業者様へのJ-Debit普及に取組まれています。本部の松村次長、笠原係長にお話をお伺いしました。

■ 新たな市場を求め

バブル崩壊により景気が悪化し、タクシー業界も波紋を受け始めたころ、組合では現金・法人チケットに続く第3の決済手段として、カード決済の検討をはじめました。オンラインにより精算事故がないという点も魅力だったそうですが、何より新たな市場を求めて、2000年11月からデビット&クレジットを開始されました。

「最初は不安で、説明会もくどいほど実施し、端末操作は何回も練習してもらいました。おかげで、今のところトラブルはありません」とのこと。

導入にあたっては、オンライン決済の注意点、端末操作方法の習熟に重点をおかれています。



<夜間はロゴと文字がライトアップされる>

■ 導入しやすい環境

組合では、加入事業者の方々がJ-Debitを導入しやすいように、十分な環境を整えられています。まず、事業者がJ-Debitに興味を持たれた場合に備え、最新型のモバイル端末のデモ機が置かれており、いつでも実際に手にとって試してみることが可能です。また、年に2回、端末購入の募集をしており、この機会に購入すれば、組合立替払いによる11回払いでの購入が可能です。

募集案内は、本部より39支部へ内部通達文書にて周知され、HPでも「営業チャンスを逃していませんか？お客様がカードで利用できる車を探していますよ！」と告知されています。

さらに、関東（神奈川、千葉、埼玉）を中心に仙台、九州と全国規模で設置を展開しています。

■ 強力なバックアップ体制

購入した端末の受け渡しの際には、J-Debit利用に関する注意事項をはじめとし、メーカー担当者を招いての端末操作を含む、半日がかりの説明会が開催されます。人数が多く、公会堂を借りて実施されたこともあるとか。既に実施された7次募集までで購入台数は5,655台に及び、同組合のタクシー2台に1台はJ-Debitの利用が可能となっています。

J-Debit利用可能を告知するステッカーや、夜になるとライトがつく表示板は、見た目の統一感も考慮し、組合が作成して、端末購入時に配布されています。もちろん、営業中に端末機に故障が発生した場合を考慮し、予備機も準備されています。

お客様から「スムーズに決済ができてよかった」という声も寄せられているそうで、今後の目標をお伺いしたところ「2005年までに8,000台、最終的には加入事業者の90～95%への導入をめざしたいと思っています」という力強いお言葉をいただきました。



<モバイル端末を操作する阿部常務理事>

名 称：東京都個人タクシー協同組合
本店所在地：東京都中野区
加入事業者数：11,300 余名
<http://www.toukokyo.or.jp/>

事務局より

タクシー業界では、クレジットも含め、全体として着実にカード決済の方向に進んでいるといわれます。

利用者からの、カード決済可能な車両の指名もあり、東京の個人タクシーや大手4社のカード対応が進み、カード決済は一気に業界のスタンダードとなりそうな勢いです。